

今週のみこ	「主がお入用なのです」 (ゼカリヤ書9章9節～10節) 「シオンの娘よ。大いに喜べ。エルサレムの娘よ。喜び叫べ。見よ。あなたの王があなたのところに来られる。この方は正しい方で、救いを賜り、柔和で、ろばに乗られる。それも、雌ろばの子の子ろばに。」(9:9) (ルカの福音書19章28節～44節) 「弟子たちは、『主がお入用なのです』と言った。」(19:34)
-------	---

今日のメッセージ要旨

◎私たちは自分の姿を見ると何の役にも立たない人間だと思いやすいのです。しかしそのような者をも必要なのですと語って下さる方がおられるのです。

◎ゼカリヤ書9章9節は、イエスの十字架にかけられる前の「棕櫚の日曜日」のエルサレム入城において成就した預言として有名です(マテ12:12-15)。イエス様は、ゼカリヤ9章を黙想しながら、父なる神がご自分のために「ろばの子」を用意しておられることを知り、弟子たちに連れて来させ、ご自分がこの預言を文字通り成就する救い主であることをエルサレム中の人々に明らかにされたと言えます。

預言者ゼカリヤはまず、「シオンの娘よ。大いに喜べ。エルサレムの娘よ。喜び叫べ。見よ。あなたの王があなたのところに来られる。この方は正しい方で、救いを賜り、柔和で、ろばに乗られる。それも、雌ろばの子の子ろばに」と記しています。「柔和」であることのしるしが、「雌ろばの子の子ろば」に乗るという形で現されます。戦いを主導する王であるならば、馬に乗って来るはずで、「子ろば」に乗るという行動に、人々の常識を変えるという意味がありました。

ゼカリヤ書では続けて、主ご自身が「ろばの子」に乗ったイスラエルの「王」によって実現する救いを、「わたしは戦車をエフライムから、軍馬をエルサレムから絶やす。戦いの弓も断たれる。この方は諸国の民に平和を告げ、その支配は海から海へ、大川から地の果てに至る」(10節)と描いています。

◎ルカの福音書19章では 当時のエルサレムは過越の祭りのため群衆でひしめき合っていたのです。以前に自らの苦難と死について三回にわたって予告しておられたイエス様はその一行と共にエルサレムに入城されたのです。その際イエス様は、メシア的王として歓呼の声で迎えられたのですが、実際は王にふさわしく馬に乗って威風堂々としてではなく、ろばに乗っての入城でした。これははっきりと「受難のメシア」としての自らの使命を明らかに示すためなのです(イザヤ62:11、ゼカリヤ9:9)。イエス様は確かに〈王〉でありますが、自らが武力によって支配する王ではなく、人々の嘲笑を受けながら、自己をささげるという徹底的無抵抗の王であることを明らかにしておられるのです。正にイエス様は「平和の君」として来られたのです(イザヤ9:6)。ですから平和のしるしとして「ろばの子」しかも「人間が誰も乗ったことのない、ろばの子」と指定され、それに乗られたのです。これは特に神の御用のために聖別されていた印です(民数記19:2、申命記21:3、サムエル①6:7)。〈ホサナ〉とは「今、お救い下さい」の意味です。私たちも心に開いて主をお迎えしましょう。群衆は主イエス様を偉大な預言者として迎えました。自分たちの期待はずれの現実に失望したのです。私たちには主イエス様を「主」としてお迎えし、従う事が求められているのです。ろばのような小さな私たちを主イエス様は必要として招き、用いて下さる恵みを感謝しましょう！